

# エコアクション21

## 2024年度環境経営レポート

(活動報告期間：2024年6月～2025年5月)



 **大一電機産業株式会社**  
エコアクション21<sup>®</sup>  
認証番号 0004518

発行日：2025年8月29日  
改訂日：2025年12月22日

《 目 次 》

1. 組織の概要	-----	2
2. 対象範囲	-----	3
3. 環境経営方針	-----	4
4. 環境経営目標	-----	5
5. 環境経営計画	-----	6
6. 環境経営目標の実績	-----	7
7. 環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の 取組内容	-----	8
8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに 違反、訴訟等の有無	-----	10
9. 代表者による全体評価と見直しの結果	-----	11

## 1. 組織の概要

### (1) 事業所名及び代表者名

大一電機産業株式会社

取締役会長 村上 卓夫

代表取締役社長 村上 雄三

### (2) 所在地

本 社 : 愛知県東海市浅山三丁目 7 7 番地

工 場 : 同上

名古屋営業所 : 同上

仙台営業所 : 宮城県仙台市太白区長町6-6-9 板橋ビル1階 2名

東京営業所 : 東京都台東区東上野3-6-1 アローマ東上野ビル3階 4名

大阪営業所 : 大阪市浪速区元町1-7-1 メゾンフジイ3階 2名

広島営業所 : 広島市東区温品5-2-22 オリエン特森 I 202号 2名

福岡営業所 : 福岡市博多区吉塚3丁目30-1 メゾン・ド・ソレイユ101号室 3名

### (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者 管 理 部 真野 由美子

担当者 管 理 部 山口 貴史

Tel : 052-308-5111

E-MAIL : detaro@daiichi.net

<https://www.daiichi.net/>

### (4) 事業内容

電子応用制御装置の開発、設計、製造及び販売

### (5) 事業の規模（2024年度）

主要製品生産量 82.1トン/年 (2025年5月31日 現在)

	本社・名古屋営業所	工場	営業所	合計
従業員	19名	11名	13名	43名
延床面積	1,544m <sup>2</sup>	2,333m <sup>2</sup>	-	-



### 3. 環境経営方針

大一電機産業株式会社は、環境問題が地球規模の広がりを持つとともに、次世代にも及ぶ長期的な問題であることを認識し、健全な事業活動において環境関連の法規・条例を遵守し社会、経済の発展と地球環境保全の実現に向け努力する。

#### <環境経営理念>

大一電機産業株式会社は、地球環境保全の重要性を深く認識し、電子応用制御機器をはじめとする製品の開発・設計・販売等の事業活動において、環境負荷の低減を図るために、社員一同、自主的・積極的に環境保全活動に取り組み、豊かな社会の発展に貢献する企業であり続ける事を目指します。

#### <環境経営保全への行動指針>

1. 自社での企画設計の強みを生かし、長期使用を前提とした製品設計を心掛けます。
2. 分別しやすい構造の製品開発を心掛け、廃棄物分別の省力化を図ります。
3. 開発された製品の問題点を見つけ出し、不良率低減に努めます。
4. 環境経営目標を定め定期的な見直しをすることにより継続的な改善に努めます。
5. 環境関連法規及びその他の要求事項を遵守します。
6. 環境への取り組みを環境経営活動レポートとしてとりまとめ公表します。
7. この方針を全従業員に周知します。

改訂 2025年12月22日  
制定 2009年5月11日

代表取締役社長    村上 雄三

#### 4. 環境経営目標

2018年度（2018年6月～2019年5月）を基準年度とする3ヵ年の目標

区 分	単位	2018年度 (基準)	2023年度	2024年度	2025年度
1. 二酸化炭素排出量の削減	CO2排出量 kg-CO2	178,109	113,232	111,452	109,671
1) 電力使用量の削減	kWh/年	113,464	96,444	95,310	94,175
	削減率	—	15%	16%	17%
本社	CO2排出量 kg-CO2	52,080	44,268	43,747	43,226
	kWh/年	91,954	62,529	61,609	60,690
工場	削減率	—	32%	33%	34%
	CO2排出量 kg-CO2	42,207	28,701	28,279	27,857
営業所	kWh/年	31,353	18,185	17,871	17,558
	削減率	—	42%	43%	44%
合計	CO2排出量 kg-CO2	14,391	8,347	8,203	8,059
	kWh/年	236,771	177,158	174,790	172,423
合計	削減率	—	25%	26%	27%
	CO2排出量 kg-CO2	108,678	81,316	80,229	79,142
2) 自動車燃料使用量の削減	ℓ/年	29,906	13,757	13,458	13,159
	削減率	—	54%	55%	56%
産廃	燃費 (km/ℓ)	13.0	13.1	13.2	13.3
	CO2排出量 kg-CO2	69,431	31,916	31,223	30,529
2. 廃棄物排出量の削減 一般	kg/年	405	231	227	223
産廃	削減率	—	43%	44%	45%
	kg/年	5,300	3,657	3,604	3,551
産廃	削減率	—	31%	32%	33%
	削減率	—	31%	32%	33%
3. 水道水使用量の削減					
本社	m <sup>3</sup> /年	340	235	231	228
	削減率	—	31%	32%	33%
工場	m <sup>3</sup> /年	144	81	79	78
	削減率	—	44%	45%	46%
営業所	m <sup>3</sup> /年	48	30	30	29
	削減率	—	37%	38%	39%
合計	m <sup>3</sup> /年	532	346	340	335
	削減率	—	35%	36%	37%
4. 製品への環境配慮 (営業所は対象外)		新製品について ECO機能設定で 消費電力を 削減可能	開発製品の過半 数を環境配慮 製品とする	開発製品の過半 数を環境配慮 製品とする	開発製品の過半 数を環境配慮 製品とする

(注) ①目標は年度毎の使用量・排出量を、また%は削減率(負号の場合は増加)を示す。

②各営業所含め電力使用量のCO2排出係数は中部電力2022年度調整後の0.459kg/kWhを使用している。

③開発製品はモデル数を基準とする目標設定。

④PRTR対象物質の使用は無いので目標設定を行っていない。

⑤各営業所の一般廃棄物は各テナントの指定場所で処分している。

⑥削減率は2021年度の実績を基準として、毎年削減率を1%増やしていく。

## 5. 環境経営計画

### (1) 二酸化炭素排出量削減

#### 1) 電力使用量の削減

- ・照明の節電(昼休み時、留守時の消灯)
- ・空調機使用時(冷房28℃ 暖房20℃)の徹底
- ・空調機フィルターの定期清掃
- ・クールビズ運動・ウォームビズ運動
- ・エージング作業の削減

#### 2) 自動車燃料使用量の削減

- ・アイドリングストップの徹底
- ・経済速度走行の徹底
- ・急発進、急加速、急停車の防止
- ・適正なタイヤ空気圧の確認・維持
- ・公共交通機関の使用促進

### (2) 廃棄物排出量削減

#### 1) 一般廃棄物の削減

- ・毎月排出量の把握
- ・分別の徹底
- ・コピー用紙の裏紙使用
- ・資源ゴミのリサイクル化(チラシ、カタログ)

#### 2) 産業廃棄物の削減

### (3) 水道水使用量の削減

- ・水使用量の把握
- ・ラベルの表示

### (4) 製品への環境配慮の推進

- ・環境負荷低減を目的とした設計段階での検討および商品開発
- ・営業活動での環境配慮の説明 ・PR

## 6. 環境経営目標の実績

区 分	単位	2018年度 (基 準)	2024年度		評価	
			目標	実績		
1. 二酸化炭素排出量の削減	C02排出量 kg-C02	178,109	111,453	124,722	△	
	削減率	—		30.0%		
	1) 電力使用量の削減 本社	kWh/年	113,464	95,310	98,139	△
		削減率	—	16%	13.5%	
		C02排出量 kg-C02	52,080	43,747	45,046	
	工場	kWh/年	91,954	61,609	74,061	△
		削減率	—	33%	19.5%	
		C02排出量 kg-C02	42,207	28,279	33,994	
	営業所	kWh/年	31,353	17,871	22,020	△
		削減率	—	43%	29.8%	
		C02排出量 kg-C02	14,391	8,203	10,107	
	合計	kWh/年	236,771	174,790	194,220	△
		削減率	—	26%	18.0%	
		C02排出量 kg-C02	108,678	80,229	89,147	
2) 自動車燃料使用量の削減	ℓ/年	29,906	13,458	15,334	△	
	削減率	—	55%	48.7%		
	燃費(km/ℓ)	13.0	13.1	13.0		
	C02排出量 kg-C02	69,431	31,223	35,575		
2. 廃棄物排出量の削減	一般	kg/年	405	227	236	△
		削減率	—	44%	41.7%	
	産廃	kg/年	5,300	3,604	0	
		削減率	—	32%	100.0%	
3. 水道水使用量の削減	本社	m <sup>3</sup> /年	340	231	213	○
		削減率	—	32%	37.4%	
	工場	m <sup>3</sup> /年	144	79	107	△
		削減率	—	45%	25.7%	
	営業所	m <sup>3</sup> /年	48	30	53	×
		削減率	—	38%	-10.4%	
	合計	m <sup>3</sup> /年	532	340	373	△
		削減率	—	36%	29.9%	
4. 製品への環境配慮 (営業所は対象外)		新製品について ECO機能設定で 消費電力を 削減可能	開発製品の過半 数を環境配慮 製品とする	開発製品の過半 数は環境配慮 製品となっ ている	○	

(注)①目標は年度毎の使用料・排出量を、また%は削減率(負号の場合は増加)を示す。

②各営業所含め電力使用量のC02排出係数は中部電力2022年度調整後の0.459kg/kWhを使用している。

③開発製品はモデル数を基準とする目標設定。

④PRTR対象物質の使用は無いので目標設定を行っていない。

⑤各営業所の一般廃棄物は各テナントの指定場所で処分している。

⑥削減率は2021年度の実績を基準として、毎年削減率を1%増やしていく。

[評価] ○：目標達成 ・ △：目標未達だが基準より向上 ・ ×：未達成

## 7. 環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

### (1) 二酸化炭素排出量の削減

#### 1) 電力使用量の削減

##### <目標未達成要因>

今期は新商品発売のため、24時間動作させての確認等、デバック作業を行ったことにより電気使用量が増加した。必要作業ではあるが、予定より作業が長引いてしまったことで電気使用が増加し、目標を達成することが出来なかった。また、営業所については、昨年に引き続き売上増加に伴う営業活動の活発化で目標達成には至らなかった。

##### <今後の課題>

業務の効率化を図り無駄のない作業を行うよう各自再認識させ実行していく。

##### <次年度の取組内容>

- ・ 照明の節電（昼休み時、留守時の消灯）
- ・ 空調機使用時（冷房28℃ 暖房20℃）の徹底
- ・ 空調機フィルターの定期清掃
- ・ クールビズ運動・ウォームビズ運動
- ・ 空調機と扇風機の併用（夏季）
- ・ デマンド監視システムにより電力使用ピーク時の管理徹底
- ・ 太陽光発電導入検討
- ・ 蛍光灯のLED化検討

#### 2) 自動車燃料使用量の削減

##### <目標未達成要因>

昨年と同じく設備機器の導入が継続して活性化しており、売上UPに伴い並行して営業員やサービス員の動きが活発になっている。

また、人手不足の影響で本社から各営業所担当の現場へ応援する機会も増え、サービス業である事から閉店後の作業が多く車での移動となってしまう。

各拠点の使用量から見ても本社、名古屋営業所が年々上がっている。

##### <今後の課題>

課題として下記2点が挙げられる。

##### ・ 人手不足の解消

求人募集は継続的に行っているが成果は出ていなく、売上UPに伴い人手不足となっており、営業所側のみで対応する事が困難な状況となっている。

##### ・ 製品に対応できる人員の確保

製品のシステム化が進むにつれて、弊社社員でしか設定が対応できない製品構成となってきている。

##### <次年度の取組内容>

- ・ アイドリングストップ及び経済速度走行（急発進・急加速・急停車）の徹底
  - ・ 適正なタイヤ空気圧の確認・維持
  - ・ ハイブリッド車の導入の継続
  - ・ 燃料使用量削減する為の営業活動方法の検討
- 継続して依頼をしている取付工事業者に対し、システム側に関する知識の指導を継続的に実施し、人手不足による負担軽減および現場対応できる人員確保の活動を行う

## (2) 廃棄物排出量の削減

### 〈目標未達成要因〉

一般廃棄物に関しては、環境整備に対する取り組みにより目標削減率には届かなかったものの基準値よりは削減できており、昨年からも238kg→236kgと微減している。

産業廃棄物としての排出は今回0となり目標達成となった。

多量に出る輸送時のパレットの一部を買取業者へ出すことで大きく削減ができた。

### 〈今後の課題〉

パレットの買取業者への引き渡しはプラスチックパレットのみとなり木パレットについては現状でも産業廃棄物の処理が必要となる。産業廃棄物ではない処理方法が無いか調査し、また入荷時に仕入業者に対して材質変更ができるかを依頼していく。

### 〈次年度の取組内容〉

- ・ 毎月排出量の把握
- ・ 分別の徹底
- ・ コピー用紙の裏紙使用
- ・ 資源ゴミのリサイクル化（チラシ、カタログ）
- ・ 毎期2回廃棄処理を行う（5月・12月）
- ・ ペーパーレスの推進
- ・ 木パレット処理方法の検討

## (3) 水道水使用量の削減

### 〈目標未達成要因〉

水道使用量揭示、ポスターなどにより節水喚起を行っているが、池掃除他各場所の清掃活動により使用量が増えている。また営業所に関しても電気使用量と同様事務所内作業増加により目標達成できなかった。

### 〈今後の課題〉

引き続き各社員への節水喚起を行っていき、また節水機器の導入検討を行う。

### 〈次年度の取組内容〉

- ・ 水使用量揭示による節水喚起
- ・ 池の水の循環利用
- ・ 池清掃の見直し
- ・ 雨水利用の検討
- ・ 節水機器の導入検討

## (4) 製品への環境配慮の促進

### 〈評価及び今後の課題〉

今期は新製品開発にあたり検証期間が長引いたのが原因で電気使用量が増加してしまった。今後は検証方法を確立し効率低下を防ぐようにしていく。

今回新製品開発の際、消費電力を抑えるため白全点灯など全体的に出力を下げるよう調整を行った。これに関しては今後の製品においても同様に調整していく。

### 〈次年度の取組内容〉

- ・ 効率低下による全体的なスケジュール遅延を出さないよう根幹部分の効率化を検討していく
- ・ 引き続き環境負荷軽減を目的とした設計段階での商品開発を進めていく

8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

確認日2025年5月31日

法令等の名称	環境側面等	法令等の要求事項		遵守評価実施
廃棄物処理法 (愛知県廃棄物適正処理条例)	産業廃棄物の排出	保管の基準	飛散、流出、地下浸透防止	○
			周囲に囲い	○
			60cm×60cm以上の看板	○
		看板記載事項	廃棄物の種類	○
			管理者の名前と連絡先	○
			最大積み上げ高さ	○
		運搬・処分委託	業者の資格	○
		委託契約書	種類、数量、性状	○
			有効期間、金額	○
			運搬と処分の関係	○
			最終処分の方法・能力	○
			許可証の写し	○
		廃棄物管理票 (マニフェスト)	所定の様式	○
			運搬終了時の写しの確認	○
処分終了時の写しの確認	○			
写し未返却時の報告	○			
報告	前年度交付状況を6月末までに事業所毎に知事へ報告	○		
	管理表の保管(5年)	○		
処理業者確認	運搬・中間業者の状況確認(1/年)	○		
	不適切処理は県へ報告	-		
使用済自動車の再資源化等に関する法律 (自動車リサイクル法)	自動車の廃業	使用済自動車の引渡義務	引取業者への引渡し リサイクル料金の負担	該当無し ○
浄化槽法	浄化槽の運用	届出	浄化槽の設置または構造・規模の変更	○
			廃止(30日以内)	-
			浄化槽管理者の変更	-
		保守	3ヶ月に1回の保守点検実施(知事の許可を受けた業者) 年1回の清掃実施(市の許可を受けた業者)	○ ○
検査	年1回の水質検査(指定機関)	○		
フロン排出抑制法	全ての業務用空調機器	目視による外観点検	設置状況 3ヶ月に1回の簡易点検 点検記録の保存	○ ○ ○
省エネ法	全ての空調機器	判断基準の遵守	部屋の使用が終わったらエアコンをオフにする クールビズに対応し、夏季は28℃設定 ウォームビズに対応し、冬季は20℃設定	○ ○ ○
愛知県民の生活環境の保全等に関する条例	空調機 (原動機の出力3.75kw以上の物)	発行日：2023年10月10日	設置の届出(設置工事開始の30日前)	○
			構造等の変更届(変更工事開始の日の30日前)	-
			騒音施設全て廃止の場合の届(廃止の日から30日以内)	-
	規制基準の遵守	騒音・振動(7時～20時):75dB ※No.9公害防止協定は65dB以下	○	
自動車の運転	従業者への指導	駐車、停車時の原動機停止の指導(駐車場利用者)	○	
駐車場の運用	周知のための措置	看板、放送、書面などによる原動機停止の周知(駐車場利用者)	○	
国等による環境物品等の調達に関する法律	物品購入	環境物品等の選択	努力義務	○
公害防止協定	東海市との協定	騒音・振動防止対策	騒音及び振動については65dB以下	○
		悪臭防止対策	敷地境界及び事業所周辺で感知させない	○
		廃棄物処理対策	廃棄物の再資源化・減量化推進の努力義務	○
		地盤沈下対策	地下水の汲み上げをしない	○
		工場緑化	事業場敷地面積の10%を目標とする	○
使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律	小型電子機器等	リサイクル	リサイクル事業者への引渡し	該当無し

環境関連法規については環境法規制等一覧表及び順守リストにより調査した結果、上記の対象となる環境関連法規全てを順守しており、関係当局や地域住民からの環境に関する違反の指摘や訴訟等は過去3年間ありません。

## 9. 代表者による全体評価と見直しの結果

2025年6月30日、代表者による全体の評価と見直しを行った結果は、次のとおり。

### 1. 代表者の評価・指示

	項目	代表者への報告事項	代表者の評価・指示事項
1	法的要求事項および当社が同意するその他の要求事項の順守	環境関連法規制等一覧表および順守リストのとおり順守している。	今後も継続して順守すること。
2	苦情を含む外部の利害関係者からのコミュニケーション	外部からの苦情等、該当事項なし。	今後も継続して、苦情が生ずることがなきよう努めること。
3	当社の環境パフォーマンス (環境改善計画・実績)	全体の電気使用量、廃棄物排出量については、基準値より削減できているものの目標の削減率は届いていない。水道使用量は、本社では目標達成したものの営業所での使用量が増え目標達成できていない。	○電気使用量 従来より取り組んでいる照明・空調の運用方法については、社員に定着できていると感じる。引き続き意識を高く持って続けるように。 デバック作業が増えたことが電気使用量の増加につながったが、この作業が増えることのマイナス面は電気使用量の増加だけではない。新商品の投入遅延が社員に余計な仕事の負荷を与えてしまう。なぜデバック作業が増えたのか原因を追究するように。
4	目標を達成している程度 (3年間の目標について)	①電力使用量 全部門において、目標達成には至らなかった。新商品発売における作業量増加、売上増加に伴う営業活動の活発化により使用量が増え、2018年基準値より削減しているものの目標削減率には届かなかった。 ②自動車燃料使用量 昨年と同様、営業活動の活発化に伴い燃料使用量は増加したが、燃費については目標を下回っている。 ③廃棄物排出量 一般廃棄物については目標達成に至らなかったが、産業廃棄物については、処理方法を変更したことにより排出量0となった為目標達成した。 ④水道使用量 本社部門においては目標達成となったが、工場部門では2018年基準に届かず、また営業所部門では未達成となった。	○自動車燃料使用量 売上が増えて車の移動距離が増加しているが、車両事故が減っている。経済速度走行が、事故の減少と燃費改善に貢献していると思うので、引き続き意識して運転するように。 ○廃棄物排出量 木製パレットをプラスチックパレットに変更できれば大きな前進になるのでコストUPにならないような形で進めるように。 ○水道使用量 もともと水の使用量は多くないので削減効果は限られるが、従来の検討事項を前に進めるように。
5	是正処置および予防処置の状況 環境関連事項法およびその他の処置	該当事項なし	特になし
6	要求事項の進展を含む変化している周囲の状況	該当事項なし	特になし

### 2. 環境経営方針、環境経営目標、環境経営計画表等、環境経営システムに関する見直し・変更に関する必要性の判断

	変更の必要性
①環境経営方針	特になし
②環境経営目標	特になし
③環境計画および環境経営システム	特になし